

II. 疫 学

1. 血栓イベントリスクの男女差 —グローバルな考察



東海大学病院循環器内科 加藤 恵理 (Kato Toda, Eri)

THROMBOSIS and Circulation

§ 論文のポイント

- [1] 性差医学は 1980 年代より心血管疾患分野を中心に発展してきた。
- [2] 女性は男性と比較して動脈硬化の進展が約 10 年遅い。この原因の 1 つとして、女性ホルモンの関与が考えられ、閉経後の女性へのホルモン補充療法 (HRT) が有望視されていた。しかし、大規模臨床試験の結果、ホルモン補充療法は心血管リスクを低下させなかった。
- [3] スタチンの性差問題は比較的歴史が短い。今年初めに CTT meta-analysis が発表され、スタチンは男女ともに同等の efficacy があることが証明された。一方で、safety に関しては、いまだに十分なデータはなく、今後の研究が期待される。
- [4] 血栓イベントにおける男女差は確実に存在するが、機序や原因が明らかになっているのはごく一部である。今後、遺伝子研究を含めた基礎研究における成果が大いに期待される。

§ キーワード

性差医学 / エストロゲン / コレステロール / スタチン